

【基礎看護学】

●目標Ⅰ. 看護の基本となる概念について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	書名・該当箇所	項目名	頁	
1. 看護の基本となる概念	A. 看護の本質	a. 看護の定義	「看護学原論」第Ⅰ章1-B 「看護学原論」付録1 「看護学原論」付録2	看護の定義 専門職団体による看護の定義 主要理論家による看護の定義	4-5 224-226 227-228	
		b. 役割と機能	「看護学原論」第Ⅰ章1-A	看護の特性	2-3	
		c. 職業としての看護	「看護学原論」第Ⅶ章2-B/D	専門職としての看護/専門職と責務	194/ 196-198	
		d. 学問としての看護	「看護学原論」第Ⅷ章4	看護・看護学の展望と課題	218-221	
		e. 看護の変遷	「看護学原論」第Ⅰ章2	看護の歴史	9-20	
	B. 看護の対象	a. 全体<whole>としての人間	「看護学原論」第Ⅱ章1	全体としての人間	32-38	
		b. 成長・発達する存在	「看護学原論」第Ⅱ章1-C	成長発達する人間	33-35	
		c. ニーズをもつ存在	「看護学原論」第Ⅱ章1-D-2	精神的環境:防衛機制	36-38	
		d. 生活を営む存在	「看護学原論」第Ⅱ章2	生活者としての人間	39-41	
		e. 適応する存在	「看護学原論」第Ⅱ章1-D	人間と環境	35-38	
		f. 社会・文化的存在	「看護学原論」第Ⅱ章2 「看護学原論」第Ⅱ章7-B-1/2	生活者としての人間 グローバル化と看護/文化と看護	39-41 63-64	
		g. ライフサイクルと発達課題	「看護学原論」第Ⅱ章1-C	成長・発達する人間	33-35	
	C. 健康と生活	a. 健康のとらえ方	「看護学原論」第Ⅱ章3-A	健康の概念	42-45	
		b. 健康の諸相	「看護学原論」第Ⅱ章3-C	ウェルネス:健康へのアプローチ	45-47	
		c. 健康への影響要因	「看護学原論」第Ⅱ章3-A	健康の概念	42-45	
		d. 生活習慣とセルフケア	「看護学原論」第Ⅳ章1-D-7 「看護学原論」第Ⅴ章3-C	自立を支援する看護技術 慢性期における看護	103 160	
		e. QOLの維持と向上	「看護学原論」第Ⅰ章1-C-2	人間科学としての看護学	7-8	
	D. 看護における倫理	a. 基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳	「看護学原論」付録3	世界医師会 ジュネーブ宣言/世界医師会 医の国際倫理綱領/患者の権利に関する世界医師会リスボン宣言	231-235	
		b. 医療の倫理原則	「看護学原論」第Ⅳ章3	看護実践と倫理	116-129	
		c. 患者の権利と擁護	「看護学原論」第Ⅳ章3	看護実践と倫理	116-129	
		d. 倫理綱領	「看護学原論」第Ⅳ章3 「看護学原論」付録3	看護実践と倫理 国際看護師協会(ICN)看護師の倫理綱領/日本看護協会 看護者の倫理綱領	116-129 229-231	
		e. 倫理的葛藤と対応	「看護学原論」第Ⅳ章3	看護実践と倫理	116-129	
	2. 看護の展開	A. 対象との関係の形成	a. 信頼関係	「基礎看護技術」第Ⅱ章4	コミュニケーション	37-56
			b. 援助関係	「基礎看護技術」第Ⅱ章4-D	専門的援助関係成立に向けたコミュニケーション	44-52
			c. 協働関係	「看護倫理」第Ⅲ章8-C	患者との協力・協働	83-84
		B. 基盤となる思考過程	a. 根拠に基づいた看護<EBN>	「看護学原論」第Ⅳ章1-B 「看護学原論」第Ⅷ章2-A 「基礎看護技術」第Ⅰ章B	看護技術の特性 根拠に基づく看護(EBN) 看護専門職者の看護技術—インフォームド・コンセントとEBN	95-97 206-209 6-7
			b. クリティカル・シンキング	「看護学原論」第Ⅴ章1 「基礎看護技術」第Ⅱ章1	看護実践とクリティカルシンキング クリティカル・シンキング	150-153 10-14
			c. 問題解決過程	「看護学原論」第Ⅴ章1-B 「基礎看護技術」第Ⅱ章1-B	看護実践においてなぜクリティカルシンキングが必要か 問題解決過程	150-153 12-14
			C. 看護における連携と協働	a. 看護の継続性	「看護学原論」第Ⅰ章4 「看護学原論」第Ⅵ章3	地域基盤の看護と看護の継続性 多職種連携・協働と看護職の役割
		b. 看護職間の連携と協働		「看護学原論」第Ⅰ章C	看護の継続性	28-29

	c. 多職種間の連携と協働	「看護学原論」第VI章1 「看護学原論」第VI章3 「看護学原論」第VI章2	チーム医療とは 保健・医療・福祉における看護 多職種の連携・協働と看護職の役割	170-172 173-177 178-182
	d. チームでの活動	「看護倫理」第III章8-D 「看護学原論」第VI章3-D 「看護学原論」第VI章3-E	チーム医療のなかでの協力・協働 多職種連携に求められる専門能力 多職種連携における看護職の役割	84-85 181-182 182

●目標Ⅱ. 基礎的な看護技術と適用のための判断プロセスについて基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	書名・該当箇所	項目名	頁
3. 看護における基本技術	A. コミュニケーション	a. コミュニケーションの構造とプロセス	「基礎看護技術」第II章4	コミュニケーション	37-56
		b. コミュニケーション技法	「看護学原論」第IV章1-D-2 「基礎看護技術」第II章4	対人関係の技術 コミュニケーション	99 37-56
		c. コミュニケーションに障害のある人々への	「基礎看護技術」第II章2	コミュニケーション	37-56
	B. 学習支援	a. 学習に関わる諸理論	「基礎看護技術」第II章5-A	看護職による教育	57-69
		b. 対象者に合わせた目標設定	「基礎看護技術」第II章5-A-4	患者教育のプロセス	63-65
		c. 対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫	「基礎看護技術」第II章5-A-5-b/c	学習方法と資源/ペダゴジーとアンドラゴジー	66-67
		d. 個別指導・集団指導の特性と適用	「基礎看護技術」第II章5-A-5-a	個別指導と集団指導	65-66
	C. 看護過程	a. 情報の種類・収集方法、情報の分析・統合	「看護学原論」第V章2-A-1 「基礎看護技術」第II章2-A	看護過程の概要 アセスメント	154-156 15-19
		b. 看護問題の明確化と優先順位決定	「看護学原論」第V章2-A-1 「基礎看護技術」第II章2-B	看護過程の概要 診断過程と看護診断	154-156 19-22
		c. 看護目標の設定と計画	「看護学原論」第V章2-A-1 「基礎看護技術」第II章2-C	看護過程の概要 計画立案—目標設定と活動計画作成	154-156 22-24
		d. 実施	「看護学原論」第V章2-A-1 「基礎看護技術」第II章2-D	看護過程の概要 実施	154-156 24-25
		e. 評価	「看護学原論」第V章2-A-1 「基礎看護技術」第II章2-E	看護過程の概要 評価	154-156 25
	D. 看護情報管理	a. 医療情報と看護情報	「看護学原論」第V章4-A 「看護倫理」第III章13	看護情報とは 情報プライバシーと守秘義務	164-165 112-120
		b. 看護における情報管理	「看護学原論」第V章4-B-3 「看護倫理」第III章13-C	記録時の留意点と管理 個人情報保護法	167-168 117-120
		c. 看護情報の記録・報告と共有	「看護学原論」第V章4-B 「基礎看護技術」第II章3	診療情報としての看護記録 記録	165-168 169-172
	E. フィジカルアセスメント	a. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義	「看護学原論」第IV章1-D-1 「ヘルスアセスメント」第I章B 「基礎看護技術」第III章4-A-1/2	フィジカルアセスメントの技術 ヘルスアセスメントとは 看護におけるヘルスアセスメントの目的/ヘルスアセスメントと看護実践の統合	98 3-5 124-125
		b. 医療面接(インタビュー、問診)	「ヘルスアセスメント」第III章2 「基礎看護技術」第III章4-A-4	面接・問診 アセスメントの技術—問診、視診、聴診、打診、触	10-12 126-132
		c. 身体診察(視診、触診、聴診、打診)の基本	「ヘルスアセスメント」第III章2-D 「ヘルスアセスメント」第III章1-A 「基礎看護技術」第III章4-A-4	身体診察 フィジカルイグザミネーションの基本手技 アセスメントの技術—問診、視診、聴診、打診、触	18-19 96-104 126-132
		d. 全身の診察(全身の観察、バイタルサイン)	「ヘルスアセスメント」第III章B 「基礎看護技術」第III章3	バイタルサインズの測定とアセスメント バイタルサインズ	105-112 104-122
		e. 系統別のフィジカルアセスメント	「ヘルスアセスメント」第III章 「基礎看護技術」第III章4-C	フィジカルアセスメント 生活行動別アセスメント	95-252 137
	F. 感染防止対策	a. 感染の成立と予防	「基礎看護技術」第III章2	感染予防	89-103
		b. 標準予防策<スタンダードプリコーション>と感染経路別予防策	「基礎看護技術」第III章2-A-2-a 「基礎看護技術」第III章2-B-3-b	スタンダード・プリコーションと感染経路別予防策 (Skill: スタンダード・プリコーション) 感染症に罹患した患者からの感染拡大を防ぐための援助	89-90,96-97 94-95

	c. 手洗い、消毒、滅菌法、無菌操作	「基礎看護技術」第Ⅲ章2-A-2	手指衛生/無菌操作/消毒と滅菌/隔離と逆隔離 (Skill:手指衛生, Skill:無菌操作)	90-91,98-101	
	d. 感染性廃棄物の取り扱い	「基礎看護技術」第Ⅲ章2-B-3-a	感染リスクの高い患者への感染を予防するための援助	93-94,96-99	
	e. 感染拡大の防止の対応	「基礎看護技術」第Ⅲ章2-B-3-b/c	感染症に罹患した患者からの感染拡大を防ぐための援助/隔離に伴う心身の苦痛を緩和するための援助(Skill:無菌操作/隔離ケアおよびカウンテ	94-95,100-102	
G. 安全管理<セーフティマネジメント>	a. 医療安全の概念と安全管理<セーフティマネジメント>	「基礎看護技術」第Ⅲ章1 「看護学原論」第Ⅳ章6	安全 医療安全	76-88 141-148	
	b. 誤薬の起こりやすい状況と対策	「基礎看護技術」第Ⅲ章1-B-1-b/3-c 「基礎看護技術」第Ⅲ章5-B-3-a	誤薬のアセスメント/誤薬の予防 与薬に共通する留意点	82-83,87 168-169	
	c. 転倒・転落の起こりやすい状況と対策	「基礎看護技術」第Ⅲ章1-B-1-a/3-b	転倒・転落のアセスメント/転倒・転落事故予防	81-82,84-87	
	d. チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策	「基礎看護技術」第Ⅳ章9-B-3-b/c	輸液管理にあたっての注意・ポイント/輸液管理におけるルート管理	389-392	
	e. 針刺しの起こりやすい状況と対策	「看護学原論」第Ⅳ章6 「基礎看護技術」第Ⅲ章2-B-3-a	医療安全 感染リスクの高い患者への感染を予防するための援助	141-148 93-94	
	H. 安楽の確保	a. 安楽の概念	「基礎看護技術」第Ⅳ章7	安楽	339-360
b. ボディメカニクスの原理と看護実践への活		「基礎看護技術」第Ⅳ章2-A-4	ボディメカニクス	240-242	
c. 安楽な姿勢・体位の保持		「基礎看護技術」第Ⅳ章2 「基礎看護技術」第Ⅳ章7 「基礎看護技術」付録1	活動・運動 安楽 主な体位一覧	236-263 339-360 494-495	
d. 安楽を提供するためのケア(マッサージ、痛みの軽減、審法)		「基礎看護技術」第Ⅳ章7	安楽	339-360	
e. 安楽を保つための療養環境の調整		「基礎看護技術」第Ⅳ章1	環境・衛生	218-235	
I. 終末期のケア	a. グリーフケア	「看護学原論」第Ⅲ章4-B 「基礎看護技術」第Ⅴ章3	医療の場におけるスピリチュアリティ 悲嘆(グリーフ)	87-90 485-492	
	b. 死亡後のケア	「基礎看護技術」第Ⅴ章3-B-1/3-b/3-c	アセスメント/臨終時/移送時	486,488	
4. 基本的日常生活援助技術	A. 環境の調整	a. 環境調整の意義	「基礎看護技術」第Ⅳ章1	環境・衛生	218-235
		b. 療養環境のアセスメント	「基礎看護技術」第Ⅳ章1-B	看護実践の展開	222-225
		c. 療養環境の調整と整備	「基礎看護技術」第Ⅳ章1	環境・衛生	218-235
	B. 食事と栄養	a. 食事と栄養の意義	「基礎看護技術」第Ⅳ章8-A-1	食べることの意義	361
		b. 健康な食生活と食事摂取基準	「基礎看護技術」第Ⅳ章8-A-4	日本人の食事摂取基準	364-367
		c. 治療食、療養食	「基礎看護技術」第Ⅳ章8-A-5	栄養摂取の方法	367-371
		d. 食事と栄養に影響する要因	「基礎看護技術」第Ⅳ章8-A-4	日本人の食事摂取基準	364-367
		e. 食事と栄養のアセスメント	「基礎看護技術」第Ⅳ章8-B-1	アセスメント	372
		f. 食事摂取の自立困難な人への援助	「基礎看護技術」第Ⅳ章8-B-3-a	経口摂取の援助/Skill:食事介助	374,379-380
		g. 嚥下障害のある人への援助	「基礎看護技術」第Ⅳ章8-B-3-b	咀嚼・嚥下トレーニング/Skill:食事介助	374-376,379-380
		h. 経管・経腸栄養法	「基礎看護技術」第Ⅳ章8-A-5-b/B-3-c	経管栄養法/経鼻経管栄養法/Skill経鼻経管栄養法	369-371,376,381-383
		i. 経静脈栄養法	「基礎看護技術」第Ⅳ章8-A-5-c	経静脈栄養法	370-371
		C. 排泄	a. 排泄の意義	「基礎看護技術」第Ⅳ章10-A 「基礎看護技術」第Ⅳ章11-A-3	基礎知識 排便行動の困難が日常生活に与える影響
	b. 排泄に影響する要因		「基礎看護技術」第Ⅳ章10-A-3 「基礎看護技術」第Ⅳ章11-A-2	排尿に影響する要因 排便状況・排便行動に影響をもたらす要因	405 424-426
	c. 排泄のアセスメント		「基礎看護技術」第Ⅳ章10-B-1 「基礎看護技術」第Ⅳ章11-B-1	アセスメント アセスメント	406-413 426-436

	d. 自然な排泄を促す援助	「基礎看護技術」第IV章10-B-3 「基礎看護技術」第IV章11-B-3-a	計画立案・実施 自然な排便を促し、整える技術	408-413 429-430	
	e. トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助	「基礎看護技術」第IV章10-B-3-a/b 「基礎看護技術」第IV章11-B-3-b-1	排泄のセルフケア不足に対する看護/Skill: ベッド上での排尿介助/尿失禁に対する看護 排便行動が1人でできない場合	408-410,414-416 430-431	
	f. 床上での排泄の援助	「基礎看護技術」第IV章10-B-3-a 「基礎看護技術」第IV章11-B-3-b-1-2	排尿介助/Skill: ベッド上での排尿介助 ベッド上での排便の援助	408,414-415 430-431	
	g. 自然な排泄が困難な人への援助	「基礎看護技術」第IV章11-B-3-c 「基礎看護技術」第IV章10-B-3-c	便の排出困難時の技術/Skill: グリセリン浣腸/Skill: 摘便 残尿や尿閉のある患者の看護/Skill: 一時的導尿、持続的導尿、膀胱洗浄	433-436,437-439,440-441 410-411,417-419,420-422,422-423	
	h. 尿失禁、便失禁のある人への援助	「基礎看護技術」第IV章10-B-2/3-b/第IV章11-B-3-b-2	看護診断/尿失禁に対する看護/便失禁を生じている場合	408/408-410/431-433	
D. 活動と運動	a. 活動と運動の意義	「基礎看護技術」第IV章2-A-1	活動・運動にかかわる機能	236-238	
	b. 活動と運動に影響する要因	「基礎看護技術」第IV章2-A-2	活動・運動に影響する要因	239	
	c. 活動と運動のアセスメント	「基礎看護技術」第IV章2-B-1	アセスメント	242-243	
	d. 活動と運動を促す援助	「基礎看護技術」第IV章2	活動・運動	236-263	
	e. 療養生活におけるレクリエーション	「基礎看護技術」第IV章2-B-3	散歩による気分転換	246-247	
E. 休息と睡眠	a. 休息と睡眠の意義	「基礎看護技術」第IV章6-A	基礎知識	329-332	
	b. 休息と睡眠に影響する要因	「基礎看護技術」第IV章6-A-3/4	睡眠と発達、睡眠障害/よい睡眠にいたる条件	330-332	
	c. 休息と睡眠のアセスメント	「基礎看護技術」第IV章6-B-1	アセスメント	332	
	d. 休息と睡眠を促す援助	「基礎看護技術」第IV章6-B-3	計画立案・実施	332-335	
F. 清潔と衣生活	a. 清潔と衣生活の意義	「基礎看護技術」第IV章1-A-1-d 「基礎看護技術」第IV章3-A-2	寝衣 清潔行動に影響を与えるもの	221 264-266	
	c	「基礎看護技術」第IV章1-A-2 「基礎看護技術」第IV章3-A-2/3	環境・衛生行動に影響を与えるもの 清潔行動に影響を与えるもの/皮膚の変化・異常の原因	222 264-266	
	c. 清潔と衣生活のアセスメント	「基礎看護技術」第IV章1-B-1 「基礎看護技術」第IV章3-B-1	アセスメント アセスメント	222 222	
	d. 清潔行動・衣生活の自立困難な人への援助	「基礎看護技術」第IV章1-B-3 「基礎看護技術」第IV章3-B-3-a	寝衣交換(Skill: 寝衣交換) 身体の清潔を保つ援助(Skill: 清拭(温湯清拭)/陰部ケア/足浴/洗髪/口腔ケア/目、耳、身だしなみの整容援助)	225(227-229) 268-271(272-274,274-276,276-278,279-281,282-285,285-286)	
5. 診療に伴う看護技術	A. 呼吸、循環、体温調整	a. 呼吸・循環・体温調整のアセスメント	「基礎看護技術」第IV章4-B-1	アセスメント	294-296
		b. 呼吸を楽にする姿勢と呼吸法	「基礎看護技術」第IV章4-B-3-a	呼吸困難を軽減する技術/姿勢、休息への援助	298-301
		c. 血圧・血流を保持する姿勢	「基礎看護技術」第IV章4-B-3-a	呼吸困難を軽減する技術/姿勢、休息への援助	298-301
		d. 酸素吸入の適応と方法	「基礎看護技術」第IV章4-B-3-a	呼吸困難を軽減する技術/Skill: 酸素療法	296-301,306-308
		e. 口腔内・鼻腔内・気管内吸引の適応と方法	「基礎看護技術」第IV章4-B-3-b-2	一時的気道吸引/Skill: 吸引	301-302,311-313
		f. 排痰法の適応と方法	「基礎看護技術」第IV章4-B-3-b-3	体位ドレナージ、スクイーミング、軽打法(パーカッション)	303-304
		g. 体温調整のための方法	「基礎看護技術」第IV章5	体温調節	314-328
	B. 皮膚・創傷管理	a. 創傷の治癒過程	「基礎看護技術」第V章1-A-3	創傷治癒課程	446-451
		b. 創傷のアセスメント	「基礎看護技術」第V章1-B-1	アセスメント	452
		c. 洗浄、保護、包帯法	「基礎看護技術」第V章1	皮膚・粘膜の障害	444-465
		d. 褥瘡の予防と治癒の促進	「基礎看護技術」第V章1-B-3-a, b	皮膚障害を予防する技術/創傷管理の技術	454-459

C. 与薬	a. 与薬における看護師の役割	「基礎看護技術」第Ⅲ章5-A-4	看護職の役割	166-167
	b. 薬剤の種類と取り扱い方法	「基礎看護技術」第Ⅲ章5-A-3/B-3-b	与薬管理の実際 各与薬方法の実際	166 169-175
	c. 与薬方法と効果の観察	「基礎看護技術」第Ⅲ章5-B-3-b	各与薬方法の実際	169-175
D. 輸液・輸血管理	a. 輸液・輸血の種類と取り扱い方法	「基礎看護技術」第Ⅳ章9	体液バランス	384-400
	b. 輸液・輸血の管理方法	「基礎看護技術」第Ⅳ章9	体液バランス	384-400
	c. 輸液・輸血の副作用(有害事象)の観察	「基礎看護技術」第Ⅳ章9	体液バランス	384-400
E. 救命救急処置	a. 生命の危機的状況のアセスメント	「基礎看護技術」第Ⅴ章2-B-1	アセスメント	469-470
	b. 一次救命処置<BLS>	「基礎看護技術」第Ⅴ章2-B-3-a-1/2	気道を確保する技術/人工呼吸の技術/Skill:心肺蘇生法	471,476-481
	c. 止血法	「基礎看護技術」第Ⅴ章2-B-3-a-3	循環を回復する技術/Skill:止血法	471-472,482
F. 生体機能のモニタリング	a. 診察・検査時の看護師の役割	「基礎看護技術」第Ⅲ章6	治療・検査にかかわる技術	194-215
	b. 検体検査(血液、尿、便、喀痰、胸水、腹水、骨髄液)	「基礎看護技術」第Ⅲ章6	治療・検査にかかわる技術	194-215
	c. 生体検査(エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学)	「基礎看護技術」第Ⅲ章6	治療・検査にかかわる技術	194-215
	d. 経皮的動脈血酸素飽和度<SpO2>の測定、血糖測定	「基礎看護技術」第Ⅳ章4-B-1-c-3	経皮的動脈血酸素飽和度	295-296
	e. モニタリング機器の取り扱い	「基礎看護技術」第Ⅲ章6	治療・検査にかかわる技術	194-215

●目標Ⅲ. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	書名・該当箇所	項目名	頁
6. 看護の役割と機能	A. 看護の場に応じた活動	a. 在宅における看護活動	「看護学原論」第Ⅰ章3-C 「看護学原論」第Ⅰ章4 「看護学原論」第Ⅱ章5-C/D	施設内看護から地域基盤の看護へ 地域基盤の看護と看護の継続性 地域における看護とは/地域生活と看護活動	23-25 26-29 55-56
		b. 医療施設における看護活動	「看護学原論」第Ⅵ章2	保健・医療・福祉における看護	173-177
		c. 保健施設と福祉施設における看護活動	「看護学原論」第Ⅵ章2	保健・医療・福祉における看護	173-177
	B. 保健・医療・福祉の連携と継続看護	a. 保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割と機能	「看護学原論」第Ⅶ章2-D 「看護学原論」第Ⅶ章3-D/E	保健・医療・福祉の提供システム 多職種連携に求められる専門能力/多職種連携における看護職の役割	175-177 181-182
		b. 保健・医療・福祉の連携を支える仕組み	「看護学原論」第Ⅶ章2-D	保健・医療・福祉の提供システム	175-177
		c. 施設内・施設間における継続看護	「看護学原論」第Ⅰ章4-C 「看護学原論」第Ⅶ章1-C	看護の継続性 施設内のチーム医療から地域のチーム医療へ	28-29 171-172